

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名	グループホーム ももたろうの郷なかよし苑
日付	平成19年3月31日
	特定非営利活動法人
評価機関名	ライフサポート
評価調査員	在宅介護経験14年、
評価調査員	在宅介護経験15年
自主評価結果を見る	
評価項目の内容を見る	
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります！)	

外部評価の結果

講評
全体を通して(特に良いと思われる点など)
建物は周囲は田園地帯の集落の中に建てられている。平成10年開設という岡山県では草分け的なグループホーム。全国グループホーム協会誕生前の全国グループホーム連絡協議会で、事業者同士が話し合いながら平成11年から自主的にサービス評価に取り組んできたそうだ。そうした歴史を有するホームの外部評価に当たる事に緊張感を持って訪問させてもらった。
9年の歴史を経て、利用者も入れ替わり、職員も当初からすると変動しているが、当時の事が続いている訳ではないが、諸記録の形式や記述内容を見ると成るほどと年輪を重ねてきている重さを感じ、納得できる面もある。
そうした歴史を経て新しい管理者、計画担当者がこのホームの運営を担う時代になっている。「職員は横一線の立場で臨みたい。上に立つ者が“おごり”を持たないで業務に励むため」と管理者は言う。「利用者の重症化が進み、桜や紅葉も見せたいが散歩もできなくなってしまった」「片やミキサー食の人もいるので、皆を同じようにしてあげる事が出来ないのが残念です」と嘆く。しかし、ここの基本方針として「全員、便器に座って排泄してもらえますように」「おしめを使わず、足が悪い人には夜はポータブルトイレを部屋で使ってもらいます」「母体のリハビリセンターが近いので、下肢の衰えを防止したり、体操をして身体機能の維持に努めてもらいます。また、塗り絵や洗濯バサミを使って手先や脳の活性化に取り組んでいます」とホームの目標と課題を教えてくれた。高齢者介護の身体機能面での基本を押さえた介護が取り組まれていることが感じられた。
特に改善の余地があると思われる点
次のような提案をした
全体的にはよく出来ていると思えるところが多く、「さすが…」と云えるところもある。いま、認知症の人を見る観点や、その介護の新しい領域をどう広げていくかが大きく問われようとしている。とりわけ、認知症の人のそれぞれの心理や内面にいかに深く向き合うかが大きなテーマになっている。「どのようにコミュニケーションをとっていくのか」「折々の利用者の気持ちや心を知ることができるのか？」が問われていると云えるのです。
これまでの基本を押さえた実績の上で、管理者と職員が協力して新しい認知症ケアのあり方を更に進める探求を行って欲しい。

Ⅰ 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	<p>「人間としての尊厳を大切に、その方が歩んでこられた人生そのものを尊重し、その人らしい生き方が送れるよう支援していく」と掲げられている。ややグループホームの一般定義に近い表現で、あまり特徴付けられたものではなさそうだ。理念は、そのホームの目指すサービスのあり方を端的に表示し、ケアの質の確保に取り組む上で根本的なものでなければならない。理念を見れば、そのホームの特長を見定める事ができ、家族も地域の人々も、その理念に共感を持ってもらえるようなものでありたい。</p> <p>このホームの特長として、母体が整形外科医院である特性を生かして身体機能維持のためのリハビリを大切に、手先や下肢の機能訓練を続けている。また、排泄は便器であるものとして、排泄介助を早めに行ったり便秘対策の改善に留意して自然排便による気分安定を図るなど、人間の身体の基本を大切にしている。ここも、このホームの強みだと思う。こうした点などを織り込んだ、理念の具体化が望まれる。</p>		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	<p>およそ10年前に建てられた設計で、現在の建築されているグループホームから比べると色々不便なところもある。特に、トイレは改善が必要であろう。また、厨房が狭く配膳に苦労したり、利用者が一緒に食事作りに参画し難い空間となっている。反面、居室は広いスペースがあり、おおきなロッカー、ベッド、整理ダンスと飾り棚が用意されているので、家族が使い慣れた備品を持つてくる必要がない。そう思う事もあってか、やや病室の延長といった趣になっていて、その人らしい空間作りにやや乏しい印象がある。家族にも良く説明をして、思い出の写真や絵画などを飾る等の工夫を加えて、居心地の良い部屋作りをしてあげて欲しい。居間の方には、利用者の書いた絵画や塗り絵の作品が適度に掲示される等、潤いのある雰囲気を作り出している。ただ、広く安全な外周の芝のある空間はこのホームの宝物でもあり、ベンチやテーブル等を置いて、気候の良い時期に外気に存分に触れる事ができるような計らいが欲しいと感じた。</p>		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		

記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	<p>「絵が好きなんですか、お上手ですね」と塗り絵をしている利用者の方に声をかけた。「いやー。そんな事はありませんよ」「その塗り方はただの人ではありませんよ」という言葉に、この女性利用者は「私は絵を書く事が好きなんです」とはにかみながら言ってくれた。なかよし苑だよりをみると「90才の書初め“成功”2文字の重み」と紹介があり、この絵を描いている人の作品で、何でも出来るんだと感心した。</p> <p>別の女性利用者に「あなたは絵を描かないのですか?」と尋ねると「私なんか何も出来なせんよ」というこの人も、同じ便りに「79才の趣の絵を描くのが密かな持ち味のさん」と写生画を紹介されていた。多くの利用者の作品がリビングルームの一角に掲示されていた。その他の特技を活かして、根気強く作品作りに挑戦している。</p> <p>男性利用者の中にタバコをやめられない人に、健康管理とのバランスをとりながら限定した本数で上手く管理支援し、ストレスにならないよう配慮していることも伺われた。</p>		

Ⅳ 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		

記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
	<p>母体の医療法人の整形外科が近くにあり、リハビリセンターを併設しているため、その機能を使って身体機能維持に努めている。また、デイケアも月2回全員で行って、そこの利用者と一緒に交流できるのもこのホームの強みである。</p> <p>このホームとセンターが一体になって、集落(町内会)との付き合いも積極的に進めており、夏祭りに行ったり、草取りにも参加して交流を強めている。</p> <p>家族会も作られており、グループホームや認知症についての情報を共有すると共に、家族同士の関係を密にして、利用者の支えとなるよう絆を強めていこうと考えている。</p> <p>職員の過半数は変動がなく、利用者も2年以上大きな変動がないことから、職員全体の理解もあり、新しい管理者と計画作成担当者が一致協力していく意気込みが感じられる。認知症ケアについての学びの意欲もあり、これからのホームの改善に期待したい。</p>		